

木材、竹材を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
2021	1	8 ～ 10	木造住宅新築工事現場において、ユニック車で建築資材を運搬してきた被災者が、荷台上で構造用の面材（約縦300×横90×厚1cm）3～5枚の束（ラップで結束。重さ約350kg）をナイロンスリング2本を使用して13tラフテレーンクレーンのフックに玉掛し、荷振れを抑えようとしていたところ、背部や頭部につり荷が激突して死亡した。	40301	6	1～ 9
2021	8	10 ～ 12	荷の積替えのため、被災者が待つ原木集荷現場に向かった同僚が、積載型トラッククレーン（トレーラー付）の横に倒れている被災者を発見した。救急車により病院に搬送されたが、死亡が確認されたもの。発見時の被災者の近くには、丸太1本と荷締め機があり、荷台の丸太を固定するためのロープが外されていた。	40301	4	1～ 9
2020	1	8 ～ 10	橋脚の橋頭部分（地上約20m）に足場を設置し、型枠を設置する作業において、型枠の位置合わせのため、クレーンで型枠（重量約700kg）を作業床から約2m吊り上げ、荷の下で2名が支障となる突起物の位置直しを行っていたところ、玉掛けされていた箇所が破損し、型枠本体が労働者2名の上に落下した（1名死亡、1名休業）。	30105	4	1～ 9
2020	2	6 ～ 8	被災者は、貨物自動車に積載していた丸太状の木材を荷降ろしするため、荷締め機で固縛したワイヤーロープを外したところ、荷台から木材2本が落下し、被災者の頭部を直撃した。	40301	4	1～ 9
2020	10	8 ～	原木をトレーラーより積み下ろす際、荷を積み下ろす側で何らかの作業をしていた運転手が荷台から落下した原木に巻き込まれたもの。荷締め	40301	4	30 ～

		10	用ワイヤーロープを解除後に、可倒式スタンションのピンを外すために荷の落下位置に立ち上がったものと推定される。			49
2019	7	16 ～ 18	倉庫整理を行っていたところ、倉庫内壁に立て掛けてあった材木（イチョウ、長さ2.6m、幅約40cm、厚さ約15cm）2枚が倒れ、被災者が下敷きになった。その際に被災者は頸髄を損傷し、約1か月後に死亡した。	30209	5	1～ 9
2019	9	10 ～ 12	被災者は、伐倒木の処理中に荷崩れ等が発生し、崩れてきた伐倒木（胸高直径約50センチメートル）に激突され死亡したものの。	60201	6	1～ 9
2018	7	14 ～ 15	トラックに搭載されたグラップル（法令上は移動式クレーン）を用いて、別のトラックの荷台に原木（杉丸太）を積み込み、荷締めワイヤーロープを掛ける作業時に積み込まれた原木（長さ約4.8メートル、直径約24センチメートル、重さ210キログラム）が落下してトラック横にいた被災者に当たった。	60201	4	50 ～ 99
2018	8	14 ～ 15	木材市場において、現場から積んできた木材を卸す準備のために、固縛していたロープを解いたところ、最上段に積んでいた木材が落下し、被災者に激突したものである。	60201	4	1～ 9
2018	12	8 ～ 9	製材所から収集してきた端材の束等を事業場敷地内においてトラックの荷台から降ろすため、被災者が台付け用具を取り外した。端材の束（重量約400キログラム）が荷台から落下し、近くで作業をしていた被災者が下敷きとなった。	10409	4	1～ 9
2017	6	6 ～ 7	被災者が、木材木製品製造業を営む学校内の、製材時に発生するおがくずを集塵するサイロ（内容積は45立米）の下で、サイロ内のおがくずを転売目的で10tトラックの荷台へ回収する作業を行っていたところ、おがくずの中に生き埋めとなり窒息しているところを発見された。	40301	5	10 ～ 29
2017	7	8	台風の接近に伴い、老木の倒壊防止のため、斜めに生えている松の木の下に丸太（直径64cm、長さ254cm）を入れて鋸で固定する作業を行っていた際に、フォークローダーにて丸太を松の木の下に入れた	140301	5	100 ～

		9	後、被災者が丸太を抱える形で位置を調整していたところ、丸太が倒れて被災者が下敷きになり、頭蓋骨骨折等により死亡した。			299
2017	11	16 ～ 17	製材作業場で、杉の原木（推定350kg）の下敷きになった被災者が発見された。	10401	4	10 ～ 29
2016	6	10 ～ 11	取引先で、木材チップをトラックに積込作業中にトラック荷台から、チップ排出口を經由してサイロ内に立入り、排出口の蓋を足場として、農業用フォークでサイロ内に残っていた木材チップ掻き出していたサイロ内の木材チップが崩壊し生き埋めとなった。	80109	5	1～ 9
2016	11	11 ～ 12	森林環境保全整備業務において、災害発生日当日は現場代理人と被災者の2人作業であった。業務分担は現場代理人が全幹材を林業センターへ運搬する業務、被災者は全幹材の仮積み作業であった。現場代理人が10時頃林業センターへ出発し、13時頃現場に戻ると、仮積みしていた全幹材（約30本、長さ16～18m）が崩壊しており、被災者は崩壊した全幹材7～8本の下敷きになっていた。	60209	5	10 ～ 29
2015	12	15 ～ 16	トラックのタイヤ交換後、交換し終えた夏タイヤを当該トラックに積み込むため荷台後方の観音扉を開けたところ、荷台内の扉に立て掛けてあったコンパネ11枚が倒れ、被災者も仰向けに倒れた。病院へ搬送後の12月5日8時15分に死亡が確認された。	80109	5	1～ 9
2015	3	12 ～ 13	店舗2階駐車場において、受電設備の更新工事が行われていた。被災者が当該工事の立ち合いをしていたところ、工事のために床に敷いてあった合板で躓き転倒し、腹部を強打した。	80202	2	100 ～ 299
2015	6	8 ～ 9	製材工場において、丸太17本（計6.03t）を積んだトラック（最大積載量2t）の荷台から落下した長さ約4mの2本の丸太（計870kg）と地面との間に、下半身がはさまれた状態の被災者が発見されたもの。被災者はトラックから丸太の荷下ろし作業を行おうとして、丸太を固定している台付けワイヤーのレバブロックを緩めたところ、荷台の最上部（高さ2.67m）付近に積んであった丸太2本が落下したも	10401	5	1～ 9

			のと推定される。			
2015	10	10 ～ 11	被災者は、山で伐採・造材された桧を7 tトラックに積み込んで市場まで運び、市場内の材木置場で停車、荷台横で桧を押さえていたラッシングベルトを外したところ、最上部（高さ約3 m）にあった桧1本（直径約25 cm、長さ約3 m、重量約130 kg）が落下し、被災者に当たった。（現認者なく、推定）	60201	4	30 ～ 49
2015	8	9 ～ 10	木造家屋建設工事中において、鋼材で作られたラックに入れた複数の建材パネルを車載型トラッククレーンを用いて移動させる作業を行う際、被災者が脚立に乗って作業をしようとしたところ、手前の建材パネルが被災者がいる方向に倒壊して、被災者はそのまま脚立から落ちて建材パネルと共に後方のアスファルト舗装の地面に仰向けの状態で倒れ、建材パネルの上枠が被災者の顔面を強打した。	30202	5	30 ～ 49
2014	1	14 ～ 15	荷主先にて、ウイング車に織物等の荷を積み込むため段取り作業（ウイングの片側を開け、養生用のベニヤ板の移動等）を行っていたところ、立て掛けていた養生用の9枚のベニヤ板が倒れ押し出され、荷台（高さ1.3 m）から墜落し頭部を強打した。	40301	5	100 ～ 299
2013	1	10 ～ 11	自社資材置き場に於いて、各所の建設現場より返却された材木を長さ別に選別整理中、1.2 mの高さの材木の束の上で半身の姿勢で材木を取ろうとした際、バランスを崩して墜落した。	30309	1	1～ 9
2013	11	10 ～ 11	道路上で杉材を林内作業車からトラッククレーンの荷台に積み替える作業中、杉材が斜めに載って天秤になったので、被災者が荷台上の杉材（高さ193 cm）の上に乗って、鳶口で当該杉材をずらしていたところ、鳶口が杉材から抜けた勢いでバランスを崩し、後頭部からアスファルト舗装の林道に墜落した。被災者はヘルメット（墜落防止用）を被っていた。被災者は10～20分の休憩後、起き上がりトラッククレーンの操作レバーを握った際、気を失った。	60201	1	1～ 9
		8	資材置き場（型枠加工場）において、約2mの高さに積み重ねられてい			10

2012	10	～ 9	た木製の化粧合板（コンパネ）が崩れ落ち、その傍で使用済みのコンパネの釘抜き作業を行っていた被災者は、崩れ落ちたコンパネの下敷きとなり死亡した。	30209	5	～ 29
2012	5	9 ～ 10	倉庫内に仮置きしている輸入合板2パレット（1パレット110枚、1パレットあたり高さ約1m、重さ1.3 t）を4 tのフォークリフトでトラックに積み込んでいた際、上段の合板が被災者側に荷崩れし、合板とあおりとの間に挟まれ胸部圧迫で死亡した。	40301	5	100 ～ 299
2012	1	15 ～ 16	丸太集積土場において、事業者と被災者の2名は、フォークリフトを用いて、トラック荷台上の丸太の荷降ろし作業を行っていた。事業者が運転したフォークリフトで丸太の下にフォークリフトの爪を差し込み上昇させたところ、丸太の1本が荷台から落下し、トラックの反対側にいた被災者を直撃した。	60209	4	1～ 9
2012	8	10 ～ 11	斜面上にある倒木を撤去するため、被災者がチェーンソーを用いて玉切り作業を行っていたところ、切断した当該倒木の根株が転落し激突された。	30199	6	1～ 9
2011	7	14 ～ 15	代表者が出先より会社に戻ってきた際に、被災者が使用していたトラックがエンジンがかかったままで止まっていたが、被災者の姿が見えないので携帯に電話をしたが出なかった。被災者を探していると、事務所から約8メートル離れた資材置場に積み上げられていた角材がトラックに倒れ掛かっており、その下で被災者が「切削作業用のウマ」の上面にアゴを載せて座り込み意識を喪失していた。救急搬送されたが、同日死亡した。	30202	1	1～ 9
2011	10	8 ～ 9	被災者は工場内にはい積みされた丸太（高さ1.5 m）の横を通行していたところ、突然、はい積みされた丸太が崩れて、丸太（長さ約4 m、直径約35 cm）が落下し、被災者に激突した。被災者は、入院先の病院において10月25日に死亡した。	10401	5	1～ 9
			事業場の作業場において、枠組壁（ツーバイフォー）工法の壁用構造材（幅約4.1 m、高さ2.45 m、厚さ10 cm）を組立て、運搬のた			

2010	12	15 ～ 16	めに鋼製パレットに立てて10枚載せ、労働者3人で当該構造材を押し て屋外へ移動させようとしたところ、倒壊防止措置が不十分であったた め当該構造材が手前に倒れそうになり、労働者3人は退避した。3枚の 構造材が倒れた後、倒れた構造材の上に被災者が乗ったところ、さらに 5枚の構造材が倒れ、下敷きとなった。	30202	5	1～ 9
2010	11	10 ～ 11	製材所の敷地内においてグラップル付きトラック（最大積載量8900 kg）に積んでいた丸太を降ろそうと固定していたワイヤーを緩めた 際、荷台上部に積載されていた丸太1本（長さ4.1m、直径40c m、重さ280kg）が落下して被災者に当たり即死したもの。トラッ クのステッキ（トラックの荷台に取り付けられた丸太転落防止用の鉄 柱）の高さを超えて丸太を積んでいた。積載量は14850kg、6 6%超であった。	40301	4	10 ～ 29
2010	10	9 ～ 10	山林の木材（杉材）の伐採現場で、伐倒木の玉切り作業中、斜面上方か ら転がり落ちて来た玉切り中の物とは別の2本の伐倒木の間で胸部を挟 まれたもの。救急搬送したが死亡した。伐倒木の滑落防止措置をしてい なかった。	60201	6	1～ 9
2010	10	15 ～ 16	砂利採取の現場において、被災者が伐木した杉を玉切りする作業を行っ ていた際、玉切りした丸太（長さ4m、直径18cm）を移動させよう と、玉切材の片端を地面につけたまま、もう片端を肩上位の高さまで持 ち上げたところ、地面につけていた玉切材の端がぬかるんで滑り、被災 者の肩、胸、太ももに玉切材が激突し、被災者は胸を骨折し、当該骨折 箇所付近の内臓からの出血により死亡した。	20202	6	1～ 9
2010	5	16 ～ 17	被災者は、荷受先の木材加工工場において、チップサイロからトラック へ木材チップを積み込む作業中、サイロ下部に開口部を設けるため、 チップの山を掘り進んでいたところ、チップサイロ内で木材チップに生 き埋めになり、窒息死したもの。	40301	5	10 ～ 29
			杉材の間伐作業中、別の杉材にかかっていた杉（長さ20m、胸高直径 0.28m）を外すため、チェーンソーを使用して玉切り中、切断箇所が			

2010	5	10 ～ 11	折れ、反ぱつした杉が被災者の腹部を直撃したもの。約50m離れた場所で作業をしていた同僚が作業音がしなくなったため、被災者の作業場へ行ったところ、被災者が倒れていたもの。防災ヘリで病院に運ばれたが死亡した。	60201	6	50 ～ 99
2009	3	13 ～ 14	雑木林の材木伐採作業場において、被災者は伐木切断作業に従事していた。昼の作業開始直後、下方で重機運転手が横倒しにした伐木を切断しやすいようクロー部分で伐木の片方を少し上げ、上方で被災者が同伐木をチェーンソーで切断していた。その時、切断中の伐木が天秤状態となり被災者が転倒したため、重機運転手が救助のため重機の運転を停止すると同時にクローが開き、伐木が被災者を直撃した。	30199	4	1～ 9
2009	10	10 ～ 11	被災者は、自ら運転してきた14tトラックに積み込んだ杉丸太（直径約24cm、長さ約4m、1本重量約200kg）約110本を工場土場に降ろすため、トラック荷台脇に回り、丸太を固定していた荷締めベルトを緩めたところ、トラックに積んでいた丸太のうち2本が、高さ約3mの位置から立て続けに落下、1本目が被災者に当たり被災者は転倒、さらに2本目が転倒した被災者を直撃した。	10401	4	10 ～ 29
2009	8	10 ～ 11	建設会社敷地内車庫において、被災者が1人でコンクリートパネル（以下「コンパネ」（縦180cm、横90cm、厚さ1.1cm、重さ8.8kg/枚））を縦長の状態で柱に立て掛けていたところ、18枚重ねて立て掛けた時点でコンパネが被災者側に倒れ出し、被災者が倒れ掛かったコンパネを両手で支えたまま、コンパネとともに土間面に倒れ、倒れる際に身体をコンクリート土間に強打した。	30199	5	1～ 9
2008	5	14 ～ 15	森林組合土場において、トラックに積んできた原木を下ろすために運転手がトラックから降りてロープを外した。その際、1本の丸太が近くに集積してあった原木の上に落下し、はね返って運転手に激突して死亡した。	40301	4	1～ 9
		12	2tトラックの荷台に長さ2.2m前後の丸太を積み込む作業をしていたとこ			1～

2008	5	～ 13	ろ、地上2.15mまで積み上げられた丸太の上にいる被災者が墜落した。	30199	1	9
2008	10	14 ～ 15	被災者は、13.8t積みトラックでアカマツの丸太材95本を運搬する作業に従事していた、配送先の手前、約150m路上に停車したトラックの脇で丸太材（直径31cm、長さ約4m、重量120kg）の下敷きになって死亡しているのを発見された。	40302	4	1～ 9
2008	12	9 ～ 10	全13棟の新築木造住宅建設現場のうちの1棟の上棟作業中、移動式クレーン（つり上げ荷重4.9t）を用いて木製コンクリートパネル材（182cm×91cm、厚さ12mm）49枚（約500kg）をつり上げた際、荷が崩れ落ちて2階で作業中の被災者にあたり、死亡した。	30202	4	10 ～ 29
2008	12	9 ～ 10	被災者は、原木を運搬するため、土場で原木75本を11tトラックに積み込み、納品先である製材工場に到着した。到着しても荷降し作業が始まらないので、納品先の従業員がトラック周辺を確認したところ、荷台近くで血を流している被災者を発見した。被災者の側には荷台に積み重ねられていた原木1本（トド松で、長さ3.7m、直径28cm、重量約250kg）が落ちていた。	60201	4	50 ～ 99
2007	4	16 ～ 17	被災者が伐倒木を林内作業車より積み下ろす作業をしていたところ、積荷の伐倒木9本が荷崩れし、その内の2本（1本あたり長さ約4m、推定で重さ約320kg）の下敷きとなった。	60201	5	10 ～ 29
2007	2	13 ～ 14	立坑内（直径3.5m、深さ29m）で解体した足場板の搬出作業中、地上から降ろされたつりバケット（直径65cm、深さ55cm）に足場板14本（長さ2mから3.3m）を縦に入れ、移動式クレーンによりつり上げたところ、地上で旋回した時に荷崩れを起こし、足場板が立坑内に落下し被災者を直撃した。	30199	4	1～ 9
2007	4	10 ～ 11	雑貨配送後、荷台の整理を行っていたところ、立てかけてあったベニヤ板15枚が被災者の方へ倒れかかり、反動で被災者が車外に投げ出され、約1.2m下の地面に落下した。	40301	5	10 ～ 29
			被災者は工場1階にトラックを止め、荷台の上から1階天井のホッパー			

2007	7	15 ～ 16	を開けて2階に集積された木材チップを荷台へ落とす作業を行っていた。次にホッパー周辺以外のチップも落とすために2階集積所に上がり、棒を用いてチップの山を崩していたところ、チップの山が崩壊して被災者が埋まった。	40301	5	10 ～ 29
2007	7	17 ～ 18	被災者は、4 tトラックで自社製品を運搬した後、荷台上でコンパネ端部に圧迫された状態で死亡しているところを発見された。コンパネは、幅60 cm、長さ236 cm、厚さ4 cmであり、8枚で84 kgの重量があり、往路は製品を置く棚として使用され、復路は荷台側壁に立掛けラッシングベルトで固定されていた。	11502	5	30 ～ 49
2007	11	11 ～ 12	被災者がグラップル装着のドラグ・ショベルを用い、1週間前に伐倒された伐木を集材する作業を行っていたところ、ドラグ・ショベル前方の斜面（傾斜角度約38%）に仮置きされていた伐木（松：長さ約22 m、元径47 cm、重量約500 kg）が滑り落ちてきて、ドラグ・ショベルのキャビン突き刺す形で運転席に激突した。	60201	6	1～ 9
2007	4	13 ～ 14	倉庫敷地内において、作業員2名が（丸太の積み込み、運搬等を行う）専用の荷役機械を用いて、20 tトレーラーに、約4 mの丸太を縦三列に積み込む作業中、荷台近くにいたトレーラーの運転手が、落ちてきた1本の丸太に激突された。	40301	4	1～ 9
2006	12	16 ～ 17	パレット用の材料に製材する古木材を知人の紹介で林道まで取りに行き、積載型小型クレーンを使用し荷台に積み込んでいた。荷台に積み込んだ古木材の位置を手で移動中足を滑らせ2.2メートル下の地面に墜落した。	10401	1	1～ 9
2006	11	12 ～ 13	事業場構内において、事業者が運転するフォークリフトから材木が落下、被災者は下敷きになった。	10402	4	10 ～ 29
		11	R C造2階建て建物新築工事現場において、R階の型枠工事のため、移動式クレーン（35 tラフター）でコンパネ100枚（180 cm×90 cm、総重量1.2 t）をR階に荷上げする作業中、当該コンパネが			1～

2006	10	～ 12	崩れて落下し、1人がコンパネに激突されてその下敷きになり、もう1人が激突されて高さ約2.8メートル下の2階コンクリート床に墜落した。	30201	4	9
2006	10	11 ～ 12	R C造2階建て建物新築工事現場において、R階の型枠工事のため、移動式クレーン（35tラフター）でコンパネ100枚（180cm×90cm、総重量1.2t）をR階に荷上げする作業中、当該コンパネが崩れて落下し、1人がコンパネに激突されてその下敷きになり、もう1人が激突されて高さ約2.8メートル下の2階コンクリート床に墜落した。	30201	4	1～ 9
2006	7	～ 18 ～ 19	倉庫内にて大型トラック（10t）の半分くらい荷積みした頃、荷台の右側に立てかけてあった当て用のベニヤ約10枚が倒れ掛かり、ベニヤに押されるように荷台から路面に落ちた。	40301	5	1～ 9
2006	8	17 ～ 18	1ロット100枚の合板が3段（中間ロットは79枚・高さ3.53m）に積み上げられた材料仮置き場にて、最上部の1ロット（100枚）をフォークリフトを用いて荷取りしようとしたところ、荷崩れが起こり、荷の後ろ側にいた被災者を直撃した。合板は、大きさ1.83m×95cm、厚さ12cm、重量12kg。100枚で約1.2t。被災者は不良品の検数と日報記録の作業を行っていた。	10409	5	50 ～ 99
2006	6	10 ～ 11	クロスカントリーコースの整備工事に関し、他業者が伐採した立木（長さ約9m）をコース上の法面（法高5.6m、勾配49°）にて立て掛けた状態で枝打ちを行っていたところ、当該伐倒木が倒れ落ち、枝打ちをしていた被災者を直撃した。	60209	5	1～ 9
2006	6	17 ～ 18	木造2階建て家屋建築工事において2階床梁迄組まれた状態で、被災者が1階の釘拾い等片付けをし、他作業員2名が外壁釘打ちをしていたところ、高さ約2.5mの2階床梁上に仮置きしていた根太（387cm×9cm×24cm、約100kg）が落ち、被災者にあたった。	30202	4	10 ～ 29
			ホテルの室内改装工事において、トラックで運搬してきた壁の下地用木			

2006	2	10 ～ 11	製パネル（コンパネ：大きさ1800×900×12ミリ、重さ約10キロ）を屋内に搬入中、仮置きのために廊下の壁に重ねて立てかけた木製パネルが雑然と40枚ほど重なっていたので、はい替えしようと木製パネルを一旦垂直に立てたところ、うち20枚ほどが被災者側に倒壊してきて木製パネルと背後の壁に挟まれた。	30209	5	1～ 9
2005	1	13 ～ 14	おがくずの回収作業中、おがくずが崩壊し、埋もれた。	150102	5	1～ 9
2005	3	0 ～ 1	材料置き場内で、木材のはいのすき間に入って、西側はいの中段にあった木材を取り出そうとしたところ、上段の木材のはい（重さ1トン）が崩壊し、下敷きとなった。	30202	5	1～ 9
2005	7	10 ～ 11	トラックの荷台の上で玉掛けしようとしていた木材（重さ400kg）が荷台から転げ落ち、下方で待機していた被災者を直撃した。	40301	5	10 ～ 29
2005	6	15 ～ 16	木材の束の上部に被せてあったビニールシートを取り、脇でしゃがみこんでシートを畳んでいたところ、上段の束の結束バンドのカシメ部が外れ、木材が被災者に落下し負傷した。	10409	5	10 ～ 29
2005	5	15 ～ 16	工場内に立て掛けてあったベニヤ板を被災者が1人で運んでいる際、ベニヤ板20枚（重さ250kg）が倒れ下敷きとなった。	10409	5	10 ～ 29
2005	5	15 ～ 16	林道開設工事現場において、伐倒した立木（丸太材、230kg）の運搬作業中、玉掛け用繊維ベルト2本を外す作業をトラックの荷台上で行っていた被災者が1m下の地面に墜落し、さらに落下した丸太材の下敷きとなった。	30106	1	10 ～ 29
2005	12	6 ～ 7	製材装置から排出されたおがくずを溜めておくサイロから、トラックへおがくずを積み込む作業中、おがくずの落下によりトラックの荷台内で生き埋めとなった。	40309	4	10 ～ 29

2004	3	15 ～ 16	2 t 車の荷台から、積んでいたコンパネを、手作業で下ろそうとした際に、コンパネが滑り落ちてきて下敷きになった。	30106	5	1～ 9
2004	9	13 ～ 14	地上にてトラックの荷台に積まれていた材料（角材、重さ約80kg）を一人の下ろす作業をしていた時、材料の下敷きとなった。	30209	4	1～ 9
2004	11	16 ～ 17	型枠解体作業終了後、使用していたベニヤ板を搬出する作業中に、パイプサポートに立てかけていた900mm×1800mmのベニヤ板40枚が倒壊し、その下敷きとなった。	30201	5	1～ 9
2004	2	16 ～ 17	トラックへの材木の積込作業中、被災者が荷台に積まれた材木上で整理を行っていたところ、足を滑らせ1.7mほど転落した。	30202	1	1～ 9
2004	10	15 ～ 16	会社の資材置き場で、製材所へ持って行く丸太をトラックに載せるため、つり上げ荷重4.8 t のトラッククレーンで運ぶ作業を行っていた際、直径50cmの赤松をつり上げるため、ワイヤーを使って片方の端を持ち上げ、角材を丸太の両側からかました後、2本つりの準備作業をしていたところ、角材を支えていた別の丸太が動き、運ぼうとした丸太を持ち上がったため被災者は丸太とともに地面に墜落した。	10401	5	1～ 9
2004	11	9 ～ 10	木造3階建て住宅新築工事現場において、3階部分の床張り工事中に、3階梁上に積み置きされた床板用構造用合板の上に誤って乗り、当該合板と共に約5m下の1階に墜落した。	30202	1	1～ 9
2004	9	14 ～ 15	資材置場において、資材の整理中地面に散乱していた角材につまづき転倒した。	30199	2	1～ 9
2003	6	9 ～	集じん機に繋がれている木材万能研削盤から焦げる臭いが出ていたので、すぐに機械と専用の排風機を止め点検を行った結果、バグフィルターに異常がないことを確認して臭いのあったダクトを塞いで他のダクトからの作業は再開し、全体の集じん機のスイッチを入れ念のため集じ	10503	14	50 ～

		10	ん塔を確認しようとシャッターを開けていたところ、突然爆燃し近くにいた3人のうち1人が死亡した。			99
2003	1	18 ～ 19	木材チップ工場のチップストックヤード（2階建の倉庫）の2階から1階に停車したトラックの荷台にチップを落とし込んだ後に、ストックヤードに残ったチップが崩れてきて生き埋めになった。	40301	5	1～ 9
2002	11	8 ～ 9	集材装置を用いて盤台上で作業中、盤台に積まれた玉切り材木から足を滑らせて約7m下の道路に墜落した。	60201	1	1～ 9
2002	12	10 ～ 11	土地区画整理に伴う擁壁工事において、擁壁内側の水捌けを良くする粗石を入れるときに土と混合しないための仕切り鉄板（153cm×355cm×2cm、質量約800kg）を栈木で仮固定（4箇所）していたときに、先に仮固定した2箇所のうち上部の栈木が外れたために鉄板が倒れ、鉄板を背に作業をしていた者に激突した。	30109	5	30 ～ 49
2002	11	8 ～ 9	急傾斜地の崩壊対策工事において、傾斜地の立木（高さ約15m、重さ約1t）をチェーンソーをで伐倒したところ、倒れた木が斜面の下方に転がったため、傍にいた者が木の元口と地面との間に挟まれた。	30199	7	10 ～ 29
2002	11	16 ～ 17	テント倉庫内で、ベニヤ板（100枚束、質量約1t）の間に万棒（荷と荷の間に入れる隙間用角材）を入れるため待機していたときに、後方で別のベニヤ板を運ぶため持ち上げたフォークリフトの爪がベニヤ板の束に引っ掛かったためベニヤ板の束が落下して下敷きになった。	80401	4	30 ～ 49
2002	10	15 ～ 16	林業作業員が通常的时间に自宅に戻らないため、心配した家族が林業現場を訪れたところ、約4mの丸太（根元直径約30cm）の下敷きになっていた。	60201	1	1～ 9
2002	10	0 ～ 1	木材チップをサイロの真下に停めたトラックで木材チップを積み込む作業で、サイロの床材を1枚ずつ外し鍬のようなもので床の空いた隙間からトラックの荷台に落下させ、最後の床材1枚を外して木材チップを落させて床材を元に戻しているときに、サイロ内の木材チップに埋もれ	40301	5	10 ～ 29

			て窒息した。			
2002	9	8	解体工事現場から廃材をトラックで処理場の敷地に運び、処理場の労働者が重機を用いて廃材を降ろす作業中に重機の爪で掴んだ廃材の一部が撥ねて飛び、トラック荷台側にいた運転手の頭部に当たった。	30202	4	1～9
2002	7	14	チップ貯蔵庫（地上より高さ4.93m）のチップを貯蔵庫下に停車した18tトレーラーに積込むため、フォークを使用して作業を行っていたときに	40301	5	10
		15	チップが崩れ落ちてチップの中に埋まった。			～29
2002	5	16	RC5階建築現場の2階壁のコンクリート打設で使用した12mmベニヤ製型	30201	4	10
		17	わくパネル（7m×4.8m）を3階へ上げるため、クレーンのフックにワイヤを2本掛けし、アイの部分をパネルにフォームタイで固定した単管とベニヤ板の隙間に通して、アイ部分に短く切った単管を通してフォームタイを締めて吊り上げたところ、フォームタイが抜けてパネルが落下した。			～29
2002	5	10	4 t トラックから杉丸太5本を降ろすため荷掛けロープを外したとき	10401	4	1～9
		11	に、1本（長さ4m10cm、直径45cm、質量130kg）の丸太が崩れ落ち下敷きになった。			
2002	2	11	0.15haの民有林の間伐作業現場において、玉切りまで終えた材（根元直	60201	4	10
		12	径35cm、長さ220cmの杉）を林内作業車に積込む作業中、材が落ちてきて左足くるぶしに当たり細菌性髄膜炎で死亡した。			～29
2001	12	15	直径40cm、長さ410cm、重さ約300kgの丸太を積載型移動式クレーンか	30199	6	50
		16	ら人力で降すため、荷台から地上へ道板を置いて丸太を土場へ落としたとき、荷台上にいた者が丸太に胸部を強打した。			～99
2001	6	16	焼却場に廃材(木造家屋の解体で発生した木くず)を4tトラックで搬入さ	150102	4	50
		17	れたので荷降ろしを手伝っていたところ、トラックの反対側からトラックシャーシで荷台の廃材を押し出したため、その廃材の下敷きになった。			～99
		13	工場内の掃除で出たゴミ屑等を一輪車サイロに捨てて帰る途中、通路脇			30

2001	12	～ 14	に4段(高さ約3m)に積み重ねられていた杉製品(長さ約3m、幅10cm、厚さ3cmの製品を120本ほどをまとめたもの)のうち上から3段が崩壊し、その下敷きになった。	10401	5	～ 49
2001	10	15 ～ 16	材木置場において、トラックに玉切した材木をフォークリフトで積み込む作業を行っていたときに、積み込んだ材木(長さ4、95m)が転がり、トラックの荷台上で作業をしていた者の頭部に当たり荷台から転落し、その上に材木が落下した。	60201	4	1～ 9
2001	10	15 ～ 16	ユーカリのチップを搬入しトラック(19、4t)のダンパー(トラックごと傾斜させ、チップをホッパーに投入する機械)で荷降ろし作業を行っていた者が、ホッパー内のチップに埋もれた状態で発見された。	50101	5	50 ～ 99
2001	8	10 ～ 11	2×4住宅の壁材の製作で、壁材をラックに6枚まで立てかけ、7枚目を立てかけるために壁材を奥にずらせるようにして直立させていたところ、壁材が倒れその下敷きになった。	10409	5	10 ～ 29
2001	6	9 ～ 10	運搬車で林内から運び出した丸太を木寄用の林業作業車で土場の仮置場に落とす作業を行っていたところ、丸太を束ねていたワイヤーロープが外れなかったため、束ねられた丸太の上に乗るワイヤーロープを鳶口で外したときに丸太が崩れ、丸太とともに約2m下の仮置場に落ち丸太の下敷きになった。	60201	1	10 ～ 29
2001	6	15 ～ 16	セミトレーナーに原木(質量200kg/1本)約120本(トレーナーの前方に60本、後方に60本)をフォークローダーで積み込んでいるときに、他のトレーナーの運転手がフォークローダーの運転手に連絡をしないまま原木の荷締め作業を行ったところ、積み込んだ原木が高さ約3、7mの位置から落下しその下敷になった。	40301	4	10 ～ 29
2001	5	8 ～ 9	材料仮置場において、結束して積み重ねてあった原木のロープを切ったところ、原木(1本の質量150kg)が崩れ落ち挟まれた。	10401	5	10 ～ 29
2000	1	14 ～	製材所の敷地においてトレーラー(最大積載荷重15t)から積荷の杉丸太を降ろす作業を行っていたときに、荷台から2本が落下して頭部に当っ	60201	4	50 ～

		15	た。			99
2000	5	14 ～ 15	製材所の原木置場において、一人で原木(重さ約800kg、約1460kg)を2～3mに玉切りするため、フォークリフトで所定の場所に二本並べて降ろして原木の上にあがって切る位置を確認していたときに原木とともに転げ落ち、原木に頭部を挟まれた。	10401	7	10 ～ 29
2000	1	11 ～ 12	4tトラックに積み込んだ材木(直径30cm、長さ9m20cmの杉材)が落下して傍を歩いていた者に当たった。	30199	5	1～ 9
2000	7	19 ～ 20	工事現場の廃材を田で焼却中に火傷を負った。	30209	16	1～ 9
2000	1	0 ～ 1	伐採現場において、集材のため伐木に玉掛けの作業を行っていた者の無線による応答が無くなったので同僚が駆けつけたところ、顔面から多量に出血して倒れていた。	60201	1	50 ～ 99
2000	8	17 ～ 18	伐採した木材(直径10cm、長さ2m)を2tトラックで資材置場に運び、トラックの荷台上から人力で降ろす作業中に木材とともに荷台から落下した。	30109	1	1～ 9
2000	6	13 ～ 14	伐倒したヒノキの原木を機械集材装置で土場に集積する作業で、土場に集積している原木の上に吊ってきた2本の原木を下ろし、2本の内の1本の荷吊り索を外そうとしたときに、原木(長さ20m、質量約0.6t)が崩れその下敷になった。	60201	5	10 ～ 29
2000	10	11 ～ 12	雑木林の伐採現場において、最大積載量3tの移動式クレーン付トラックの荷台で伐採した雑木(長さ1.7m、重量75kg)を移動させたところ、突然、動きだしたため雑木と共に転落し、胸に雑木が激突した。	30199	4	10 ～ 29
2000	2	0 ～ 1	トラック(3.25t)にグラブで伐採した丸太を積む作業中に丸太が落下し下敷きになった。	10401	4	1～ 9

2000	4	13 ～ 14	型枠に用いる合板(180cm×90cm)45枚をラフタークレーン(2.5t)にポ リ製スリングをかけて吊っていたところ、合板が落下し下敷きになっ た。	30105	4	～ 29
2000	2	0 ～ 1	製品乾燥場にあるフォークリフトのフォークが持ち上げられていて、そ の下に倒れているのが発見された。(天然乾燥している未完成の製品を製 材するため工場に運搬しようとしていたものと推測される)	10401	1	1～ 9
1999	7	14 ～ 15	型枠用の板(約900kg)を50t移動式クレーンで型枠上に吊上げて置いたと ころ、型枠の中間梁の部分が変形して鋼製梁が外れたため、梁と型枠用 の板が落下し、これが、鉄パイプを運搬しながら下を歩いていた者に 当たった。	30201	4	10 ～ 29
1999	4	13 ～ 14	製材工場内において、高さ約2.8mに積み上げてあった木材が崩れ落 ち、このうち約150本の下敷きとなった。	10401	5	30 ～ 49
1999	4	11 ～ 12	資材置場で型枠の製作を行っていたところ、製作済みの型枠が突風にあ おられて約15m飛来し、直撃された。	30209	4	50 ～ 99
1999	3	10 ～ 11	県道に隣接する木材置場において、木材の下敷きになり死亡していた。 (発生時の目撃者はない)	10401	5	1～ 9
1999	3	16 ～ 17	太さ約1メートル高さ約20メートルのもみの木を伐採し、法面を登って いるときに代倒木が倒れてきて、下敷きになった。	60201	5	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_29.html